

第 4 区

定数 25 名

候補者 25 名

候補者氏名（受付順）

1. 氏名 2. 生年月日 3. 主たる勤務地 4. 経歴 5. 抱負 6. 現職/新任/再任

1. 調 憲 2. 1961/9/11
3. 群馬大学総合外科学講座肝胆脾外科分野
4. 1986 年 九州大学医学部卒業
1990 年 ミネソタ大学外科 研究員
2012 年 九州大学消化器・総合外科学講座 准教授
2015 年 群馬大学 肝胆脾外科分野 教授
2024 年 群馬大学医学部長
5. 先人の努力と創意工夫によって築かれた世界に誇れるわが国の外科を次世代の外科医が幸福を感じられる持続可能な形で引き継ぐために力を尽くし、以って外科医が国民の福祉に貢献する未来を描くことを抱負したい。
6. 現職

1. 佐伯 浩司 2. 1969/9/8
3. 群馬大学大学院 消化管外科
4. 1994 年 長崎大学医学部卒業
1994 年 九州大学第 2 外科（消化器・総合外科）
2003 年 Memorial Sloan-Kettering Cancer Center
2019 年 群馬大学消化管外科教授
5. ハイレベルで信頼性の高い外科診療の提供、地域における外科医療の活性化、未来を担う若手外科医の育成を通し、外科学の発展に少しでも貢献できるよう全力で取り組む所存です。ご支援の程宜しくお願い申し上げます。
6. 現職

1. 熊谷 洋一 2. 1966/11/12
3. 埼玉医科大学総合医療センター
4. 1992 年 3 月弘前大学医学部卒業
1992 年 6 月東京医科歯科大学第 1 外科入局
2011 年 10 月埼玉医科大学総合医療センター外科講師
2013 年 4 月同准教授
2024 年 4 月同教授
5. 消化器外科医として培った臨床経験を基盤に、低侵襲外科治療・集学的癌治療・救急医療の充実を図り、研究推進と地域医療の発展、さらに若手外科医の獲得と育成に努め微力ながら本学会に貢献したいと考えています。
6. 新任

1. 河野 光智 2. 1967/11/17
3. 埼玉医科大学総合医療センター
4. 1993 年慶應大卒業
1995 年慶應大呼吸器外科
2003 年マサチューセッツ総合病院留学
2010 年コペンハーゲン大学病院
2011 年慶應大講師
2015 年東海大准教授
2021 年埼玉医大総合医療センター教授
5. 外科領域の幅広い可能性に魅力を感じ、呼吸器外科の全てにおいて最高の医療を提供できるよう学んで参りました。若い医師たちに外科と研究の魅力を伝え、ともに働く仲間を増やし、日本の医療に貢献していく所存です。
6. 現職

1. 川人 宏次 2. 1961/5/27
3. 自治医科大学 心臓血管外科
4. 1986 年徳島大卒。1986 年三井記念病院外科。1994 年ペイラー医科大。2007 年慈恵医大柏病院心臓外科部長。2011 年自治医大心臓血管外科学内教授。2018 年同教授。2024 年外科学講座主任教授。
5. 若い外科医がやりがいをもって活躍できる環境を築くため、現場・教育の両面から全力を尽くす所存です。
6. 現職

1. 岸 庸二 2. 1973/1/11
3. 防衛医科大学校外科学講座 3
4. 1998 年 東京大学医学部卒業
2007 年 東京大学大学院医学系研究科修了
2011 年 国立がん研究センター中央病院肝胆脾外科医員
2017 年 同医長
2019 年 防衛医科大学校外科学講座 3 教授
5. 外科医のキャリアを重ねていくことは、大変ではあるものの、仲間と助け合い、切磋琢磨することで、魅力や楽しさを感じることが出来ます。若手医師が意欲を持って修練を続けられる教育環境整備に力を注いで参ります。
6. 現職

1. 千田 雅之 2. 1961/4/27
3. 獨協医科大学
4. 東北大学：昭和 61 年卒業
獨協医科大学呼吸器外科学講座主任教授（2010-現在まで）
日本呼吸器外科学会理事長（2017-2021）
日本胸部外科学会理事長（2023-現在まで）
5. サブスペシャリティ領域での理事長経験を生かし、日本外科学会の更なる発展に尽くしたいと思います。消化器外科に偏りすぎない、各領域が満遍なく活躍できる学会運営を推し進めていきたいと思っています。
6. 現職

1. 青木 琢 2. 1969/9/9
3. 獨協医科大学 肝・胆・膵外科
4. 1994 年 3 月東京大学医学部医学科卒
2004 年 3 月東京大学大学院医学系研究科卒
2008 年 7 月東京大学肝胆膵外科講師
2014 年 10 月獨協医科大学第二外科学内教授
2022 年 4 月獨協医科大学肝胆膵外科教授
5. 現在、Case Report 誌編集委員を務めております。地方における若手外科医の獲得・育成、また臨床研究の遂行を通して外科学会に貢献したいと考えております。よろしく願い申し上げます。
6. 現職

1. 宗田 真 2. 1974/11/1
3. 群馬県立がんセンター
4. 1999 年群馬大学医学部卒業、群馬大学第一外科入局、2005 年博士号取得、2013 年群馬大学総合外科学講座助教、2018 年 7 月講師、2020 年 1 月准教授、2024 年より群馬県立がんセンター外科部長
5. 1999 年に入会し専門医・指導医を取得、食道癌の外科診療を中心に診療を行っております。代議員にも御選出頂き各委員会活動も行っております。引き続き学会の発展に貢献すべく努力させていただきます。
6. 現職

1. 水島 恒和 2. 1966/9/19
3. 獨協医科大学
4. 1992 年 大阪大学医学部卒業後、消化器外科領域を中心に大学病院・市中病院で臨床・研究・教育に従事し、炎症性腸疾患、再生医療、低侵襲手術に関する研究と教育に取り組んできました。
5. これまで専門医制度委員会、NCD 連絡委員会、英文誌編集委員会委員等として日本外科学会の発展に尽力して参りました。今後も学会の発展、外科医の育成と地位向上に貢献したいと考えております。
6. 現職

1. 小嶋 一幸 2. 1962/7/26
3. 獨協医科大学 上部消化管外科
4. 昭和 62 年群馬大学医学部卒。
東京医科歯科大学第 2 外科入局。
H27 年東京医科歯科大学低侵襲医療学分野教授
H30 年獨協医科大学第一外科主任教授。
R4 年 獨協医科大学上部消化管外科主任教授
5. 今後、大きく変わってゆく日本社会や地域の中で、日本外科学会が担っている役割を果たしてゆけるよう尽力するとともに、若手外科医の育成、低侵襲手術の普及を通じて、地域医療に微力ながら貢献したい。
6. 現職

1. 吉富 秀幸 2. 1965/3/20
3. 獨協医科大学埼玉医療センター
4. 1990 年千葉大学医学部卒
1998 年千葉大学大学院医学研究院卒
1999 年 Fox Chase Cancer Center
2004 年千葉大学臓器制御外科学
2020 年獨協医科大学埼玉医療センター 外科教授
5. これまで、肝胆膵外科を中心に研究、臨床を行ってきました。これまでの知見を生かし、1 人でも多くの外科医を育て、外科医不足の解消に向け努力するとともに、学会の発展のため尽力いたします。
6. 現職

1. 酒井 真 2. 1976/4/28
3. 群馬大学医学部附属病院総合外科学
4. 2002年3月群馬大学医学部 卒業, 2002年4月群馬大学医学部附属病院第一外科, 2017年4月 群馬大学医学部附属病院総合外科学 助教, 2019年10月 同講師, 2024年10月 同准教授
5. これまで消化器外科学分野の診療, 教育, 研究に従事して参りました. 外科の魅力を若手医師にアピールし, 外科学会の活性化, 永続的な発展に貢献できるよう, 精進していく所存です. 何卒宜しくお願い申し上げます.
6. 新任

1. 桜本 信一 2. 1959/5/26
3. 埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科
4. 1984年3月: 北里大学医学部医学科卒業
1984年6月: 北里大学外科入局
1996年7月: 北里大学医学部外科講師
2013年1月: 埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科教授
5. 私の専門は食道・胃外科です. 鏡視下手術, ロボット支援下手術を数多く経験し, 技術認定医やプロクターを取得しました. これまでの多くの経験を若手外科医に教育し, 安全な手術手技を指導したいと考えています.
6. 現職

1. 吉武 明弘 2. 1972/5/3
3. 埼玉医科大学国際医療センター
4. 1998年慶應義塾大学卒業
モナコ心臓胸部センター・チェンマイ大学臨床フェロー
2016年慶應義塾大学医学部外科専任講師
2019年埼玉医科大学国際医療センター心臓血管外科教授・診療部長
2025年同副院長
5. 臨床に最も重点をおき常に手術の腕を磨くことを考えて今できました. 微力ではございますが後進の外科医の育成, 日本の外科学会の発展に関わることができればと思います. よろしくお願いします.
6. 新任

1. 上野 秀樹 2. 1964/9/20
3. 防衛医科大学校外科学講座
4. 1990.03 防衛医科大学校卒業
2003.10 防衛医科大学校外科学第一講座 助手
2009.04 防衛医科大学校外科学講座 講師
2014.04 同 准教授
2016.04 同 教授(〜現在)
5. 本学会代議員として英文誌編集委員(Editorial Board), 邦文誌編集委員を務めております. 本学会の伝統を重んじ, 若手外科医に魅力的な, そして世界に誇る日本外科学会となるよう尽力する所存です.
6. 現職

1. 堤 浩二 2. 1965/9/30
3. 防衛医科大学校外科学講座(心臓血管・呼吸器)
4. 1991年3月防衛医科大学校卒業
1997年4月慶應義塾大学大学院医学研究科入学
2001年3月同大学院研究科単位取得退学
2015年7月防衛医科大学校外科准教授
2025年1月防衛医科大学校外科教授
5. 現在外科を志す医師の減少が著しい. 外科の魅力を伝え外科を志す医学生の増加を目指すとともに現在第1線で活躍している外科医の処遇改善に努め外科診療をできるだけ長く実施して頂けるよう環境改善に尽力する.
6. 新任

1. 立石 渉 2. 1980/8/12
3. 群馬大学医学部附属病院
4. 2006年 群馬大学医学部医学科卒業
利根中央病院研修医
東京女子医大東医療センター 心臓血管外科
群馬県立心臓血管センター 心臓血管外科を経て
2018年 群馬大学循環器外科 助教
2022年 同 講師
5. 日本外科学会の一員として, 地域の外科医師獲得, 医療の底上げに貢献したいと思います.
よろしく願いいたします.
6. 新任

1. 富川 盛啓 2. 1966/2/27
3. 地方独立行政法人栃木県立がんセンター
4. 1991 年慶應義塾大学卒業，同外科学教室入局
総合太田病院（群馬県），栃木県立がんセンターレジデント，慶應大学一般消化器外科，川崎市立川崎病院を経て1999年より当センター勤務
2025 年より副病院長
5. これまで習得し発展させてきた外科やがんに関する知識，手術手技などを生かし，国際化に即した本学会の発展，若手が臨床医の育成，さまざまながん医療の集約化/均てん化を含む地域医療の発展などに貢献したい。
6. 新任

1. 照井 慶太 2. 1973/1/10
3. 自治医科大学
4. 1998 年千葉大学医学部卒業
1998-2009 年 千葉大学小児外科・関連病院
2010 年松戸市立病院小児医療センター小児外科
2013 年千葉大学 小児外科
2023 年 自治医科大学 小児外科
5. 次の世代の外科につなげられるよう，尽力致します。
6. 新任

1. 新本健一郎 2. 1978/7/10
3. 群馬大学大学院 肝胆膵外科学分野
4. 2003 年 群馬大学病態総合外科（旧第1外科）
2011 年 同助教
2012～2013 年 フランス IMM, Paul Brousse 留学
2020 年 群馬大学肝胆膵外科講師
2024 年 同准教授/診療副科長
5. 主に肝胆膵外科に従事してまいりました。
若手外科医育成，高難度手術の安全性向上，低侵襲手術の発展，研究に取り組んでおります。
日本外科学会と外科学の発展に貢献すべく，尽力してまいりたいと存じます。
6. 新任

1. 山口 博紀 2. 1967/1/31
3. 自治医科大学 消化器一般移植外科
4. 1993 年 東京大学医学部医学科卒業 2002 年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了 2017 年 自治医科大学附属病院臨床腫瘍科教授 2023 年同消化器一般移植外科教授
5. 地域医療の最前線で消化器外科の臨床・教育・研究に尽力し，未来を担う外科医の育成を通じて，外科学会の発展と持続可能な医療体制の構築に貢献します。
6. 現職

1. 力山 敏樹 2. 1962/8/13
3. 自治医科大学附属さいたま医療センター
4. 1990 年東北大学卒業，1997 年医学博士（東北大学），1999 年米国 NIH 留学，2007 年東北大学肝胆膵外科講師，2012 年自治医科大学附属さいたま医療センター一般・消化器外科教授・科長
5. 外科学の進歩発展，日本外科学会の益々の発展に寄与すべく誠心誠意邁進する所存です。
6. 現職

1. 竹村 信行 2. 1974/6/27
3. 埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科
4. H11 京都府立医科大学研修医，H15 東京大学肝胆膵移植外科，H17 三井記念，H19 東京大学，H22 がん研有明，H24 東京大学，H25JR 東京，H29 国立国際医療 C，R5 埼玉医科大学総合医療センター教授
5. 埼玉県の医師不足，外科医不足を解消するため，働き方改革を促進するとともに，若手外科医のリクルート，教育に精進し，かつ，外科学会の発展に全力で貢献する所存です。若輩者ですがどうぞ宜しくお願い致します
6. 新任

1. 坪地 宏嘉 2. 1969/6/3

3. 自治医科大学外科学講座呼吸器外科学部門

4. 平成7年東北大学医学部医学科卒業

平成13年東北大学大学院医学研究科卒業

平成7年関東通信病院研修医

平成17年自治医科大学付属さいたま医療センター呼吸器外科

令和2年自治医科大学外科学講座呼吸器外科学部門

5. これまで呼吸器外科医として臨床, 研究, 教育に従事してまいりました。昨今外科志望の医師の減少が問題となっており, 特に若手外科医の待遇改善に向けた取り組みに力を入れたいと考えております。

6. 新任